

茨城大学人文学部

平成24(2012)年度 新入文学部がスタートします！



こんな皆さんに来てほしい ～入学者受け入れ方針

〈アドミッション・ポリシー〉

- ・ 本学部における学修に必要な高等学校等での国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科等の基礎学力を有する人
- ・ 人間と社会の諸問題に広く関心を持ち、大学での学びを通じてそれを探求したいと考えている人
- ・ 大学での学びを通じて自らを高めたいという意欲を持っている人
- ・ 提示された課題に対して、自分の考えをわかりやすく表現できる人

こんな人になってほしい ～卒業認定・学位授与の方針

〈ディプロマ・ポリシー〉

- ・ 豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につけるとともに、人間の文化や社会に関する専門的知識と、それを探求するための方法を理解している。
- ・ 人文諸科学・社会諸科学の特定領域の専門性を踏まえて、人間や社会の問題について論理的かつ総合的に考えることができる。
- ・ 学びを通じて自らを高め続ける力を身につけ、人間・社会の直面する諸課題に対して、他者と協力しながら、自律的かつ主体的にかかわることができる。
- ・ 社会で活躍できる確かなコミュニケーション能力と課題解決能力を身につけている。

新しい人文学部の特色

◎ 様々な分野が学べる魅力あふれるカリキュラム

- ・ 古代文明から現代の若者文化までカバーする人文コミュニケーション学科、地域社会から国際関係までカバーする社会科学科で、人文諸科学、社会諸科学の様々な分野の学習ができます。
- ・ 基礎から応用まで無理なく専門分野を深められる体系的なカリキュラム。
- ・ 一つの専門分野だけでなく、自分の関心に応じて様々な分野を合わせて学び視野を広げることができます。

◎ 社会で役に立つ“本物の力”、キラリと光る実践力が身につきます

- ・ 4年後に社会人として飛躍するために、カリキュラムに組み込まれた“根力(ねぢから)育成”科目群(プログラム)があなたを応援します。
- ・ また、専門分野の勉強だけでは飽きたらず、ワンランク上の実践力を身につけたい人のために、多彩な“プログラム”を用意しました。 → 詳しくは「プログラムの概要」をご覧ください。

◎ 少人数教育ときめ細かい履修指導

4年間を通じて、少人数形式の授業を用意しています。親身に相談に乗ってくれる教員スタッフと、学生同士の交流から生まれる友情で、大学生活にちょっと不安を感じるあなたも大丈夫。

◎ 先進の教育情報システムと学習支援環境

高速回線(1Gbps)を備えた安定した通信環境により学習や生活に関する諸情報を素早く確実に提供できる他、国内さらには海外と結んでの遠隔授業も開講されています。ビジュアル機器はもちろん、インターネットを使った学習支援システムやCALL教室(PCマルチメディア外国語学習教室)等を備え、学生が自由に使えるリフレッシュルーム・自習室・共同研究室・学部専門図書室も完備。充実した学習環境を提供しています。

コース

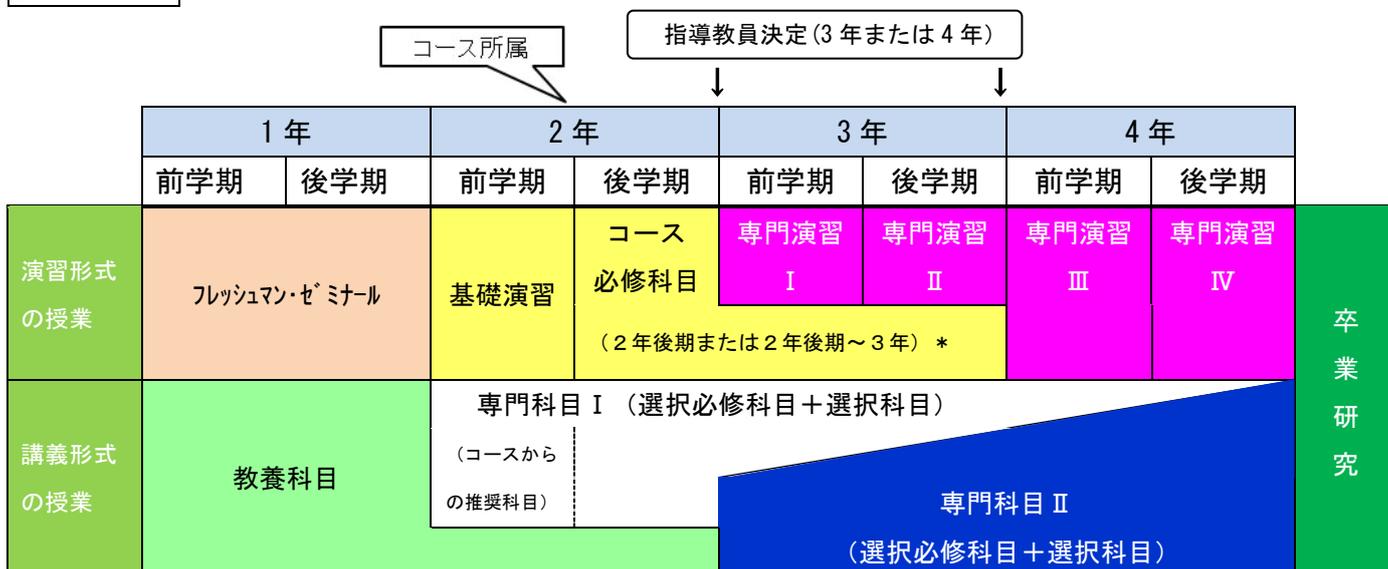
過去5年間の学科・コースの教育を自己点検・評価し、**これまでの長所を伸ばし、学科・コースの教育をさらに充実させることのできるコース編成**をしました。

人間科学コース	心理学や社会学・文化人類学などの実践的方法で人間の営みを多角的視点から探求する
歴史・文化遺産コース	考古学から近現代史までの歴史や文化遺産についての専門知識を学びながら歴史的思考力を育成する
文芸・思想コース	文芸や思想に関する作品や文献をとおして人間を深く理解する能力や日本語や外国語の読解・表現能力を鍛える
言語コミュニケーションコース	言語と言語行為に関する専門知識に裏打ちされた論証力を養成する
異文化コミュニケーションコース	国際社会に求められる異文化適応能力や異文化コミュニケーション能力を育成する
メディア文化コース	新聞・テレビ・インターネット・映画・マンガなど現代メディアの特質を学びながら情報の読解力や表現力を養成する

カリキュラム

- 学科・コース教育の充実のために、「どのような人に来てほしいか（アドミッション・ポリシー）、4年間の教育で学生にどのような力をつけて社会に送り出したいか（ディプロマ・ポリシー）、そのためにどのようなカリキュラムが必要か（カリキュラム・ポリシー）」を**じっくり真剣に検討**しました。
- その結果、専門教育のスタートの**2年生前期にコースからの推奨科目（概論系科目群）**を用意し、コースに所属する**2年生後期からはコース教育の要として「コース必修科目」**を新設することにしました。
- また、4年間をとおした少人数による演習形式の授業や、専門科目Ⅰ・Ⅱの講義形式の授業もさらに充実したカリキュラムとなります。
- **新カリキュラム**による4年間の履修の様子を、下の**履修モデル図**で確認してください！

履修モデル図



* コース必修科目は、2年後期に履修するコースと2年後期～3年生に履修するコースがあります。

社会科学科のカリキュラムは、大きく変わります。第一に、コースが、従来の4コースから、**法学・行政学コース、経済学・経営学コース、地域研究・社会学コースの3コース**に変わります。自分の専攻や進路に関連する授業を、わかりやすい学問分野に沿って体系的に履修できます。第二に、1・2年次の演習科目が、20人程度の主題別ゼミナールと基礎演習から、15人程度のフレッシュマン・ゼミナールとコース・ゼミナールに変わります。3・4年次の10人以下の専門ゼミナールと合わせて、**少人数教育**が徹底され、今まで以上に主体的な学習ができるようになります。進化した社会科学科で、充実した4年間を過ごしてください。

コース

■ **法学・行政学コース** ～「政策的思考とリーガルマインドを同時に養成」

現代では所有関係を巡る紛争や犯罪だけでなく、福祉や環境などの複雑な生活問題に対処するために、司法や行政に対する期待が一層高まっています。このコースでは、憲法、民法、刑法などの法律とともに、政府の組織や制度に関する科目もバランスよく学習します。紛争解決や公共サービスについて理論的・実践的に学ぶことにより、政策的思考能力と法的思考能力（リーガルマインド）を同時に養えます。卒業生には、公務員や会社員として、また、法科大学院への進学、司法書士などの資格取得を通じて、これらの能力を活かせる人材となることが期待されます。

■ **経済学・経営学コース** ～「経済・経営・会計の「働き」と「仕組み」を理論と実践から学ぶ」

今、私たちには、ますます複雑になる経済社会について大局的に把握しつつ、さらに自分の生き方を考えることが求められています。このコースでは、企業や消費者を取り巻く経済社会の政策・制度から企業の管理・会計手法、経営戦略まで幅広く学習することができます。経済、経営、会計のダイナミックな働きと仕組みを理論と実践の双方から学ぶことによって、論理的思考力、課題発見・分析・解決能力を養うことができます。卒業後は金融機関、メーカー、流通等の民間企業の財務・経理・人事・営業・企画部門などでの幅広い活躍が期待されるとともに、各種公務員や税理士等への道も開かれます。

■ **地域研究・社会学コース** ～「グローバル・地域・市民の目線から」

このコースでは、現実の世界が抱える様々な問題を、グローバルな文脈で考えながら、その総体的把握の場としての「地域」という視点から探求することを目指します。それぞれの教員が専門とする地域は、日本を含め、ほぼ世界全域を網羅しています。また社会学を主に、政治学、経済学、地理学、歴史学を専門分野とする教員を抱えていることも特徴です。そこには、既存の学問の枠にとらわれず、場合によっては複数の学問の手法を活用しながら学ぶ場を学生に提供するという理念が込められています。国内外の行政、企業、そしてNPO等の非営利分野において、福祉・環境・市民協働といった課題で強みを発揮できる人材としての活躍が期待されています。

履修モデル図

	1年		2年		3年		4年		卒業研究
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
演習形式の授業	フレッシュマン・ゼミナール		コース・ゼミ I	コース・ゼミ II	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III	専門ゼミ IV	卒業研究
講義形式の授業	教養科目		専門科目 I		専門科目 II				



◎プログラムの概要

プログラムとは? 各コースでの専門分野の学習の他に、指定された科目群から一定数の単位を修得することで、特定の能力が身につくよう構成された学習課程のことです。

根力（ねぢから）育成プログラム

社会人として活躍できる主体性・思考力・チームワーク力などの“根力（ねぢから）”を育成するプログラムです。まず1年次に、「フレッシュマン・ゼミナール」で卒業後も応用可能な「大学での学習の方法」を身につけることから始まり、2～3年次には自らの方向性を確認するための科目群や社会人・卒業生による講義を履修するとともに、インターンシップなどによる実地体験もおこないます。さらに3～4年次には、学内イベントの企画・運営に加わるなどの実践を通じて、社会人として期待される能力をさらに向上させることを目指します。また学習の達成度を自ら評価するポートフォリオの作成にも取り組むことになります。

国際教養プログラム

国際教養プログラムでは、国際的な視野を持ち英語による実践的コミュニケーション力を駆使できるような人材になることを目標とします。1年次後期から、様々な分野の科目の履修と並行して、このプログラムのために開発された英語科目を集中的に履修し、3年次後期からは、英語を用いて自己発信することができる能力を養成する科目や、留学生と共に英語で開講する科目を履修します。また、英語圏の交流協定校への短期留学に必要な TOEFL の対策授業や、就活に有利な TOEIC の対策授業も開講されます。

地域課題の総合的探求プログラム

皆さんは、人文コミュニケーション学科ないし社会科学科の各コースに所属し、哲学や心理学、法学や経済学など、様々な専門分野を勉強していきます。しかし、地域では文化財保護、介護、リサイクルなど、それらの専門分野の一つ一つでは対応できない、複雑な課題が生じています。そこでこのプログラムでは、特定の課題に関心を持った学生がグループをつくり、各コースで学んだ知見を持ち寄って、その課題を総合的に探求していきます。地域課題の発見・解決が目的であり、専門的な知見が手段となるわけです。なおこのプログラムでは、地域の行政、産業、法曹、メディアなどの専門家と討論したり、特定の課題を現場で調査したり、地域の行事を体験したりする科目が設定されます。そのため、1学年で30名ほどの少人数精鋭のプログラムとなります。

日本語教育プログラム

近年、日本語学習者は海外及び日本国内でも増加しており、日本語教育へのニーズは高まっています。日本語教育プログラムは、外国語として日本語を指導するために必要な専門的基礎知識と基礎能力の習得を目的としています。修了に必要な単位数は26単位（必修科目12単位、選択科目14単位）で、実際に外国人に日本語を教える実習授業も含まれています。必要単位修得者には「茨城大学日本語教育プログラム修了証」を交付します。本プログラムは、留学生センターが人文学部と教育学部と連携し、大学教育センターの協力を得て、開講しています。

◎取得可能な資格

人文コミュニケーション学科 【中・高等学校教諭一種免許状（国語、外国語＜英・独・仏＞）】

【中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）、学芸員】

社会科学科 【中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）、学芸員】

お問い合わせ

茨城大学人文学部

〒310-8512 水戸市文京2-1-1

電話 029-228-8106

<http://www.hum.ibaraki.ac.jp/>

